

新たな北陸港湾ビジョン取りまとめの方向性

1. 背景

北陸地方整備局では 2000 年に「日本海地域ビジョン」を、さらに 2005 年には概ね 10 年～15 年後を目途とした北陸地方の港湾・空港に関する将来の姿を整理した「北陸港湾・空港ビジョン」を策定しており、2020 年で策定から 15 年を迎えました。

また、国土交通省港湾局においては、2018 年 7 月に 2030 年頃の将来を見据え港湾の果たすべき役割や今後特に推進すべき港湾政策の方向性等が「港湾の中長期政策『PORT2030』」としてとりまとめられたところです。

これらの背景を踏まえ、北陸地方整備局では、北陸の港湾について社会情勢の変化や未来像を検討し、北陸における中長期的な港湾のあり方として、新たに「北陸港湾ビジョン(仮)」を策定することを検討しています。

2. 北陸港湾ビジョン策定に向けた主な論点(案)

<物流>

- (1) 外貿コンテナ輸送(農林水産物・食品の輸出促進(小口混載輸送)、SLB(シベリア・ランド・ブリッジ)の活用、多方面へのダイレクト航路の形成等)
- (2) 内貿ユニットロード輸送(内航フェリー・ROROの機能強化、次世代高規格ユニットロードターミナルの形成等)
- (3) その他(バルク貨物輸送等)

<産業>

- (3) LNG輸送ネットワーク(新たなネットワーク構築の可能性等)
- (4) 洋上風力発電／バイオマス発電の可能性

<防災>

- (5) 太平洋側港湾の広域バックアップ体制の構築
- (6) 港湾施設の強靱化

<維持管理>

- (7) 港湾施設の老朽化対策

<観光>

- (8) クルーズ振興
- (9) みなとオアシスにおけるにぎわい創出